

これからの日本を

板橋区立赤塚第一中学校 9年 立川 茜

「二千十九年十月一日から消費税十%増税。」

昨年から今まで八%だった消費税が、二%分の増税となりました。ますます負担がかかると落胆する人、ちょうど十%だから計算が楽だと思ふ人など、それぞれ思いは違ふと思ひます。何故、増税が必要なのか、どうしてこの時期に増税をしたのでしょうか。

現在の日本は、少子高齢化による現役世代の減少と高齢者の増加という大きな問題を抱えています。高齢者の増加は医療費をはじめとする社会保障費を増大させます。この増え続ける社会保障費の財源を確保することが消費税が行われる目的の一つだそうです。この事が掲載されている資料を見て、私は疑問を抱きました。

「どうして消費税なんだろう。」

法人税や所得税でも増税を行い、税収を増やす事が出来るはずなのに、なぜ消費税を増税したのでしょうか。それには明確な理由がありました。

所得税や法人税の増税を行うことでも税収は増えますが、それでは現役世代に集中した負担をかけてしまうことになるので、高齢者を含めた国民全体で広く負担する消費税がふさわしいとされました。また、所得税や法人税は利益部分に課税される税金であるため、不景気になると税収が減少してしまいます。しかし、これに対して消費税は景気に左右されにくく安定した税収を得ることが出来るのです。

今後はどこまで増税されるのでしょうか。

「コロナの負担はきっと増税となって返ってくるんだろうな。」

給付金の支給、アベノマスク配布のニュースがやっていると父や母がそろって口にだします。実際に北欧や、ヨーロッパの国々では消費税率二十%を超える国が多くあります。日本もコロナ負担がこのまま進めば、二十%増税という意見もでてくるでしょう。けれどそれらすべては、現役世代から次世代の人々のための取り組みだという事を忘れないで欲しいです。政治家のように直接的に国造りに関わる事はないですが、その国造りに関わる費用や政治家は全て税で成り立っているのです。増税だと落胆するのではなく、日本国民として国造りに関与するんだという意識で、また増税発表された際に受け入れたいです。

これからの日本を創っていくのは、私たち納税者なのです。